

ふるさと再発見

本光寺

本光寺は、島原藩主の菩提寺として知られています。

境内の小高い丘は、戦国時代の沖田畷合戦時の古戦場「丸尾城跡」で、この丸尾城跡には「藩主松平家の墓所」（市指定史跡）があります。土塀と石垣に囲まれた墓域には、二代藩主忠雄公をはじめ初代藩主忠房公の生母の墓など大小23基の墓があり、特に忠雄公の墓は高さ3・75メートルという壮大なもので、当時の藩主の勢威を偲ぶことができます。

墓所のそばには大迦葉尊者だいぎやうそんしやを中心に左右8体ずつの石像が安置された「十六羅漢石像」（市指定文化財）もあります。これは元文三年（1738年）、当時の住職実山和尚じゆく じやうざんが発願し、藩主忠刻ちゆくが領内の石工に1人1体ずつ刻ませたものです。

本堂入口の山門は、切妻流屋根の4脚門となっており、建築史上貴重なものといわれています。これは、元禄三年（1690年）本光寺の前身浄林寺が創建された時の遺構と伝えられている由緒あるもので、市の指定文化財になっています。



また、本光寺所有の文書類には、県指定文化財の「混一疆理歴代国都地図」をはじめ、戦国時代から近世までの貴重なものが数多くあり、併設されている常磐歴史資料館で見ることができません。歴史が凝縮された本光寺。皆さんも一度訪れてみてはいかがでしょうか。

クローズ アップ Close Up!



島原農業高校食品加工部

島原農業高校食品加工部が、10月5日から7日まで北海道で開催された日本学校農業クラブ全国大会のプロジェクト発表会食料・生産部門で優秀賞を受賞しました。

この大会で、食品加工部が発表したのは、南島原市の製めん業者と共同開発した「スープ生姜めん」です。

全国2位の生産量を誇る島原そうめんの知名度アップや地元食材の利用、また、健康ブームなどをコンセプトに、スープ生姜めんの企画につながったそうです。製品化の際は、めんがうまく伸びなかったり、味の微調整にとても苦労したそうです。

また、9月17日には、大阪府で開催された商談会に製めん業者と一緒に参加し、百貨店など流通業者にスープ生姜めんのPRと売り込みを行いました。大阪商工会議所の話によると、高校生の参加は初めてだということです。部員の皆さんは「緊張したけれど、自分たちで作った商品のPRができて嬉しかったです。百貨店だけでなく、もっと手軽に買えるようになればいいなと思います。今後も、地元食材を使った商品開発を行っていきたい」と話してくれました。



大阪での商談会の様子

食品加工部のみなさんは、スープ生姜めんだけでなく、島原マンゴーのジャムづくりなどにも携わり、地元食材を活かした取り組みで、島原を盛り上げてくれています。